

兵庫民医連第5回避難者健康診断

「…背景にある原発問題に医療者として向き合っていく…」

8月23日尼崎医療生協病院で避難者健康診断を実施しました。兵庫民医連では、原発事故の放射能の被害により兵庫県に避難された被災者のニーズに応え、甲状腺エコーを含む健康診断（県連内の事業所で2013年8月から年に2回実施）を行い、今回で5回目となります。

当日は44名19家族（内科20名小児科24名、避難元別では福島県10名、茨城県2名、栃木県1名、千葉県8名、埼玉県4名、神奈川県3名、東京都16名）が受診されました。医師体制は内科2診（尼崎医療生協病院：金田医師、東神戸病院：滝本医師）、小児科3診（尼崎医療生協病院：富永医師、保険医協会：池内医師、辻医師）、前回から参加の眼科検診（保険医協会：山中医師+スタッフ3名）で、今回もオール兵庫民医連+保険医協会+ボランティアで総勢49名での健診体制となりました。



診察を行う富永医師



受診者に寄り添う青年JBの職員

今回、尼崎医療生協病院としては2回目、参加要員も複数回参加していることもあり、手順、流れはスムーズでした。また、12家族が過去健診を受診しているのでスタンプラリー形式で検査にまわっていくのにも楽しんでいる様子でした。

職学生（U君、Kさん、Sさん）たちは、レクリエーションで子どもたちを和ませてくれたり、問診にも同席し、「事故の影響を目の当たりにしてたくさん感じたことはありますが言葉にできません」との感想で、貴重な経験ができたようです。子どもたちの嫌がる採血でもあおぞら生協クリニックの看護師にかかれば、泣く子はいませんでした。頑張った子どもたちには青年ジャンボリー(2名)の職員が遊具を使った遊びで迎えました。はじめはこわばった面持ちで来られた受診者の皆さんは、民医連のみなさんがこうして健診をしてくださるからここに居られると、安心して検査を受けられたことで、最終ゴールでは、とてもすっきりとした表情をされていました。今回初めて兵庫県弁護士会(2名)にも協力いただき相談コーナーでは2家族の住宅支援問題等に対応をしていただきました。

職員からは「被ばくへの不安に理解のない医療への不信から受診が妨げられている子どもたちの存在に心が痛む」「目には見えない被害(放射能)…改めて実感した。健康を補償する義務を、東京電力や国は責任を果たすべきだ。」「県連の取り組みとして、今後、避難者健診を開催する意義を各法人に今以上、浸透していく事が必要」「生活していく中で良い環境維持をしていく事は、…今後の世代をささえていく子供たちへのプレゼントです。大人ができる事をしっかり今後につなげていきたいと思った。」「この健診の背景にある原発問題に医療者として向き合っていくことの重要性、民医連がとりくむことの意義、社会的使命をあらためて感じました」等感想が出されました。

健診に先立って行われた東神戸診療所の郷地先生の事前学習会(8月11日)では日本社会医学会で発表した福島県甲状腺検査の甲状腺癌多発を放射線とは無関係とする国・福島県の評価は説明できないことを根拠に基づき考察されました。金田医師含む19名が参加しました。(被ばく対策委員：松本理花)

